

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 2階		
所在地	京都府京都市南区上烏羽奈須野町202		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にさざなみで過ごせて良かったと思って頂けるように、おひとりおひとりの思いに寄り添った支援を課題としている。「楽しく・自由に・ありのままに。残された力で暮らす喜び。愛にあふれた家庭的な暮らしを。地域との交流と連携を。」の理念を常に目標とした支援を心がけている。特に、残された力で暮らす喜び。出来る事は積極的に行って頂いている。家庭的な雰囲気の中で、人生の最期までその人らしく生活して頂く事を目指して支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryoVoCd=2690500042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryoVoCd=2690500042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国際化する介護人材を3人(1月から4人)雇用され、職員の潜在能力や協働性など一人ひとりの良い点を引き出して、「教えられたことを支援に結び付ける前向きな姿勢」を評価し、一人をリーダーに任命し、力が発揮出来るようにされています。管理者は職員の発想を大切にされ、投げかけはするが、後は自分たちでどの様にしていきたいのかを任されています。「利用者の支援を一番に考えたうえで、働きやすい職場を作っていきたい」との思いで、職員間の風通しも良く、意見を気軽に言える環境を築いています。また、重度化、終末期支援の研修を管理者自身がおこなうなど、福祉に「熱い」事業所でもあります。3ユニットのグループホームは入居者の平均介護度3.0で、一人ひとりの残存能力を大切に、理念通りの「楽しく・自由に・ありのままに」暮らせる支援に努められています。また、地域との交流や連携を大切に、町内の組長も担い役員会にも出席してこられました。コロナ禍の背景の中、理念の達成に向けた地域との交流は広がらない現状ですが、だれでも参加できる「さざなみカフェ」の開催に取り掛かれると共に、入居者の周辺散歩やドライブで外出支援の再開をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にてスタッフ全員で理念の唱和を行っている。	「利用者が残存能力を使って暮らすことに喜びを感じて貰えるような事業所でありたい」と理念に掲げ、地域との連携や交流を望まれているが、コロナ時代に突入してしまった。事業所理念は玄関に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者・家族や地域の人にも浸透するようにしている。職員は朝礼で理念の唱和をしている。また理念達成に向けて、さざなみ事業所全体の目標やさざなみ京都南の目標は毎年見直して、利用者の自立支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さざなみカフェを始めた。認知症の方だけでなくどなたでも来ていただけるようにしている。	町内会に参加し、回覧板で情報を共有して祭りへの寄付や草取りなどに参加をしている。事業所のイベントとして、フィーリングアートをおこなう時はボランティアの方に来てもらっている。また、だれでも参加できる「さざなみカフェ」を、第1、第3日曜日に開催しており、案内のチラシを新聞の折り込みで、広範囲に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェを通じて認知症介護について興味を持って頂けるようにしていく。イベントに参加の案内も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告やご意見をいただいている。	運営推進会議は入居者・家族、陶化地域包括支援センター職員、近隣デイサービス職員がメンバーで対面開催をしている。メンバーを増やすために曜日や日時を調整しているが、参加は得られていない。会議は併設の小規模多機能型事業所と一緒に開催し、議題は入居者の状況や事故報告、活動報告をおこなっているが、身体拘束適正委員会の報告はされていなかった。昨年度に会議と同時に開催したクリスマスパーティが好評で、今年度もまた開催してほしいとの意見があり、検討している。案内、議事録共にメンバーや家族全員に送付している。	運営推進会議で出された意見を記録に起こし充実されることで、より透明性が高まることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時、担当者の方にお会いしてご意見・指導をいただいている。	行政の担当課には、困難事例の相談や事故報告、運営推進会議の議事録を持って行っている。「共用型デイサービスを申請中」だが、長い間動いていない。入居者を担当しているケースワーカーが月1回来られるので、いろいろと話し合い、相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行っている。フロアでの意見交換を毎月行っている。身体拘束委員会の実施。	身体拘束適正化委員会を3か月ごとに(管理者、計画作成者、看護師、リーダー2人)開催し、同法人事業所や事業所での拘束事例の確認をおこない、職員会議で職員に周知すると共に押印ももっている。年2回の「身体拘束ゼロ対策」の研修は管理者が作成した動画でおこなうと共に、フロアでの意見交換や月末の全体会議で話し合っている。日々の支援の中でスピーチロックや巻おむつは使わないようにしている。部屋の中を動き廻られたり、気持ちの落ち着かれない方は「何故そのようになれるのかを考えて」と職員に投げかけて、利用者ひとり一人の思いを話し合っている。職員の言動で、職員同士でも気付いたときは注意をしあっているが、管理者のところまで上がってきたことは全体会議の議題としている。また事業所がさながら実家になるように、「おかえり」「ただいま」の気持ちとなるような心遣いで接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っている。フロアでの意見交換を毎月行っている。身体拘束委員会の実施(虐待防止について)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利についての研修を行っている。(特に基本的人権について)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・運営規定に沿って説明を行い同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で要望を聞いたりしている。(中々、要望に答えられない事もある)	家族からは電話や面会時に要望を聞く他に、法人で毎年満足度アンケートを実施し、集計・検討後に家族へ送付すると共に、ホームページで公開している。また、毎月、利用者の写真、職員と管理者からの手紙を送付して安心してもらっている。コロナ発症時に面会が実施できなかった時期に急に体調が悪くなり救急搬送をするが亡くなられた経験から、「明日はどうなるかわからない」との考えに基づいて、クラスター発生時以外、出来るだけ、面会が出来るようにしている。昨年度におこなったクリスマスパーティを開催してほしいという要望があり、実施していく方向で検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2・3回、スタッフ面談を行っている。毎日の振り返りシートでスタッフの思いを確認している。	管理者は定例会議で職員の意見を聞く他、出勤時、退勤時、その他勤務中にできるだけ声掛けをおこない意見を聞くようにしている。また、職員が1日の終わりに書き込む「1日のチェックシート」を大切にして、忙しい中でも職員がポジティブになれるコメントを書くようにし、管理者不在時でも他職員に伝達する他、電話で「何か変わったことはないか」など気にかけている。また、年に2～3回の人事考課面談を実施し、職員個々の目標を設定している。職員からの要望で実現したことでは、食器乾燥機、ミキサー、洗濯機の買い替え、洗濯石鹸を粉から液体にした、そして、ベッドの駆動方式を変更したなどで反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト調整等でスタッフの希望を取り入れている。時間をみて、スタッフ一人一人と話す機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員に資格取得してもらっている。法人内研修には参加してもらっているが外部は行けてない。今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などがあれば、積極的に出てもらおうようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時、しっかりと話す時間を作りご希望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや困っておられることが、聞けるようにしている。(共感)安心して入居いただけるように納得されるまで話し合いを行っている。また、お話を聞く中でどのようなサービスが必要なのかを見極められるようにしている。		

京都府 さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の思いや困っておられることが、聞けるようにしている。(共感)安心して入居いただけるように納得されるまで話し合いと行っている。また、お話を聞く中でどのようなサービスが必要なのかを見極められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の思いに寄り添った支援を心がけている。洗濯物たたみ・おぼん拭きなどスタッフと一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも変わったことがあれば、ご家族様にご報告・ご相談している。また、年1回ご家族様のご意見を聞くためのアンケートを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの公園に出かけたりしている。近所の入居者様がおられないので、中々出かけたり出来ていない。	馴染みの人や場はアセスメントのための情報収集の生活歴で把握したり、生活の中で、利用者の思い出話を聞いて支援記録に記入し共有している。ドライブで、馴染みの城南宮への初詣や、上鳥羽下水処理場に藤の花を見に行っている。近隣の利用者が入居されている時は近くの公園に出かけ、顔見知りの方に会うこともある。利用者の得意なことでピアノを弾いてもらったり、お茶をたててもらう方もいる。訪問美容は美容師の職員がおこなうなど、入居してからの馴染みができるような支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで入居者様同士過ごされる時に、スタッフが中に入り橋渡ししている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、連絡があったり入居者様の紹介もして頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のサービスの中で、会話内容・仕草から思いや意向を把握し、ご家族様とご相談している。	日々の生活の中で、利用者の表情をしっかりと確認しながら笑顔が見られる働きかけを心がけている。職員が笑顔で、利用者によく関わること、自分の言葉で言えない方も相手の話すことは分かっていることが多いので、拒否してしまわれないように関わりの仕方に気を付けている。また、難聴の方は、横で大きな声でゆっくりと話したり、筆談で伝えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話の中に出てくる今までの生活の様子・思いをスタッフで情報交換して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での小さな変化に気付けるように努め、自立を促し、ご本人様ができるように見守り支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の生活歴を把握しケアマネを中心に、思いに寄り添った支援を行うように意見交換している。	契約時のアセスメントシートを基に管理者や計画作成者スタッフが入り、思いに寄り添った支援が出来るように介護計画を作成している。毎月のユニット会議で、カンファレンスをおこない、利用者の気になる行動を話し合い、原因を見つけ出し、職員の配慮点も確認している。3か月ごとにモニタリングをおこない、6か月ごとに家族や本人の意向、医療情報を入れて再アセスメントをおこなっている。その上でサービス担当者会議を開催して、6か月～12か月で、介護計画の見直しをしている。ただし、利用者の様態変化や更新時はその都度見なおしている。利用者の趣味や得意なこと、好きなことなどの把握と記録が乏しかった。	利用者の趣味や得意なこと、好きなことなどのアセスメントでの情報をより詳しくすれば、もっとその人らしい希望に沿った支援に繋がれることと期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中から気づきのケアを介護計画に反映させていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のご希望、思いに添えるように、ご家族様と連絡を取りながらきめ細かな支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しつつあるが、有効に活用する方法を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2か所の協力医療機関として、吉祥院病院・もりいじゅん外科内科クリニックの定期的な訪問往診を受けていただいている。	2か所の協力医療機関の訪問診療で、月2回受診している。看護師は週1回、事業所の非常勤職員が健康管理をおこなうほか、吉祥院病院の看護師は24時間オンコール体制を取っている。皮膚科などの専門医にかかる場合は、担当医に紹介状を書いてもらっている。歯科医は訪問診療で希望者は月2回診てもらい、全員が歯科衛生士に口腔衛生指導を受けている。緊急時には管理者に連絡をして、管理者がかかりつけ医師の判断を仰ぎ、指示に従っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状況を報告、相談し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様、家族様と相談しながら、医療機関との連携を図り、早期での退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの講習を何回もおこなっている。最期のひと呼吸までの支援の大切さを共有している。	入居者・家族には入居時の面接でターミナルケアの指針で、説明をおこなっている。また職員には「死にゆく人の心と体の仕組みと終末期介護」のテーマで管理者が何回も研修を行い「最期のひと呼吸までの支援の大切さ」を共有している。終末期の方に合わせた支援がおこなえるよう、どの時点で家族を呼ぶかを細かく考え、家族が泊りがけで看取ったこともある。今後の目標として「認知症と看取りの過程について」の詳細を、管理者が家族に伝えていくことを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を目につく所に貼り、連絡系統図も掲示して常に連絡出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、スタッフと共に入居者様にも参加していただいている。	年2回(4月、12月)昼・夜想定で火災時の避難訓練をおこない、入居者は各フロアの非常口で救助を待機している。12月に消防署に来てもらう時には地域の方にも知らせていく予定をされている。水害の訓練はまだ実施できていないが、屋上への避難と、土嚢の導入も考えている。近所の方の避難場所として受け入れの体制を作っている。備蓄リストを作成し、会社が纏めて購入している。またローリングストックについても現在検討中である。BCP(事業継続計画)はほぼ完成し、各事業所で調整中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格や人生史を考えて、お声かけや対応を考えている。	「利用者の権利や尊厳」の研修をおこない。職員は業務の終わりに「1日の振り返りシート」に接遇や支援の仕方、気づきを振り返り記入して、管理者が、アドバイスを記入して返している。同姓の入居者がいる場合は名前で呼ぶが、原則として苗字で呼んでいる。また入居者の前で足組み、腕組みをしないよう心がけている。トイレや入浴時の支援はタオルをかけるようにし、羞恥心に配慮した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、接する事の中で、ご利用者様の思いをスタッフに伝えて頂けるように空間づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事、出来ない事を見極めてスタッフ同士で意見交換し、入居者様の思いに寄り添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1度理美容の訪問を利用している。毎日の服装も自己決定して頂けるようにしている。		



京都府 さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルのかたづけ、アルコール消毒等をスタッフと一緒にいき、今から食事が始まる事を認識してもらっている。	朝食はおかゆ、雑炊、白ご飯、週1回～2回のパン食とヨーグルト、果物、ヤクルトを交互に食している。昼、夕は各ユニットで白ご飯とみそ汁を作り、チルドで調理済み食品が2品と手作りの副菜一品の材料とレシピが届き、職員が調理をして提供している。おやつは日曜日にホットケーキ、たこ焼き、クレープなど手作りしている。月1回利用者のリクエスト献立、水曜日は事業所での手作り献立、日曜日は毎週ルーを使ったカレーやシチューの日を作っている。行事食ではおせちや赤飯、恵方巻、ちらしずし、流しそうめんなどを楽しんだり、クリスマスケーキはロールケーキにデコレーションをして楽しんでいる。利用者の相性を考えた配席で、車いすの方も食事の時にはイスに移乗され食卓に向かわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に注意し記録して足りていない場合には代替食品や原因を考えている。月1回管理栄養士の指導をうけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなどの口腔ケア時に、口腔内の状態を確認し、報告・相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、サイクルを把握して声掛けをおこなっている。	一人一人の排泄パターンを把握した上で「ちょっといきましょか」と声掛けをし、トイレでの排泄支援をしている。入居者が退院してきた際にもテーブル式からリハビリパンツに変えて、トイレ誘導で、自立排泄ができるよう支援している。排せつ用品の変更は介護支援専門員と相談をして進めている。夜間は利用者の状態把握がしやすい場所に待機し、入居者が起きてトイレでの排泄ができる支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを召し上がって頂いている。体操1日2～3回行っている。		

京都府 さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定を行い、尊厳を重視している。	基本、週2回の入浴機会を設け、お湯は一人ずつ入れ替え、浴槽に入るのが難しい方には足浴しながらのシャワー浴で対応している。熱い目の湯温を希望されるが、その方の体調に合わせて、38度から41度で調節をしている。事前にバイタル測定や気分、体調を確認して、一緒に着替えを準備して入浴が楽しみになるように話しかけている。入浴時の見守りは浴槽の横で寄り添う方や、脱衣所で見守る方など、その方に合わせている。入浴拒否の方は職員を交代するなどの工夫をしている。季節湯としてゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はご本人様のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時の受診もさることながら、服薬情報も把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて、洗濯物たみやトレー拭きなどのお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様よりご家族様の希望が強い。コロナウイルス感染症もあり実施出来ない	車中ドライブで城南宮の初詣や、公共施設の藤棚を見に行ったり、近くの公園まで紅葉を楽しみに行っている。施設周辺の散歩も楽しんでいる。事業所裏庭の柿や枇杷の収穫を楽しみ、おやつで食したり、畑のキュウリや大根、茄子をみそ汁の具にするなど、旬の食材を楽しんでいる。家族の希望で外食に出かけられる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設やご家族様の管理のもとで、生活用品の購入している。時には嗜好品の購入も行っている。		

京都府 さざなみ京都南 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を持たれているかについては充電などのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等で作成された作品をフロアに飾り付けている。	リビングは南向きの大きな窓から陽が良く入り、敬老会のお祝いの手形やレクリエーションで作成した季節感を感じさせる飾り付けをされている。ペランダで日光浴や近郊の景色が楽しめる。入居者は車いすや歩行器、杖を利用される方が多く、2~3人で話されている方や、1人離れて座りお元気で思いのままに話されている方、また、車いすで、思いのままにリビングを動かれる方、そして、居室から一人で、出てこられた利用者等もいます。みなさん、自宅からのお出かけ風景が感じられ、顔を見て「こんにちは」と挨拶を頂きました。動線を邪魔しないように、浴室、トイレ、キッチンが廊下東側に縦列に配置され、居室は廊下西側に機能的に設置されている。実家が工芸を生業にしている入居者の家族が飾り物をもつて来られ、趣きのある設えになっている。職員が夜間に清掃をおこない清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり、利用者様同士のスペースに気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付けや掃除を行い、使っておられた家具などを使用していただいている。	表札を掲げ、利用者が部屋を確認しやすくし、空調、ベッド、筆筒、テレビ、カーテン、照明器具が備え付けられ、入居者はそれぞれに、本や楽譜、仏壇、位牌、遺影等を持ってこられ、家族の写真やプレゼント品、カレンダーを飾り、居心地よく過ごせるように工夫をされている。馴染みの寝具で、安眠されている。窓からは近隣風景が楽しめるなど開放感がある。清掃、消毒は職員が毎朝おこない清潔な環境に気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にお名前をつけさせて頂き、ご本人様で確認して頂けるように工夫している。		